

教科名	理科	学 年	2	週時間数	4
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス2」(啓林館)				
副教材等	グラフィック「理科資料集」(新学社) 「理科の完全学習」(正進社)				

教科の目標		○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる。 ○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことができる。		
授業の進め方		○グループ学習を取り入れて知識の定着と理解を深めていきます。必要に応じてビデオ等も見ます。 ○身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けます。 ○身近な自然現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見いだして表現します。また、探究の過程を振り返ります。 ○観察・実験はグループで行います。実験後にレポートを完成して、提出します。 ○定期テスト・小テスト等を行います。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つ	○物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。	○物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象から問題を見出している。	○物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり見通しをもって振り返ることができる。
	力	○科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析することができる。 ○分析したことを解釈し、表現するなど科学的に探究している。	
	方法	・定期テストや小テスト ・実技テスト ・観察実験の様子 ・授業での発言内容	・定期テストや小テスト ・観察実験レポートの内容 ・授業での発言内容 ・授業プリントの内容	・授業プリントや振り返りの内容 ・観察実験への取り組み方 ・授業での発言内容 ・自主学習の取り組み ・定期テストや小テスト
	学習のポイント	○授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や資料集を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ○目的や意図を考えながら、観察実験を行おう。	○日ごろから疑問を持つことを大事にするとことん追究していこう。 ○観察実験で得られた結果から、どのような特徴や規則性があるのか多方向から考え、分析してみよう。	○授業の内容だけでなくとどまることなく、「もっと知りたい」「なぜ？」を大事にし、自ら調べて知識を増やしていこう。 ○仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。
家庭		○普段からテレビなどで放送される科学的な事象についてのニュースなどに目を向けて、授業で学習した科学的概念とのつながりを意識しよう。 ○教科書やワークシートをしっかりと見返して、学習した内容の理解と定着を図ろう。 ○授業で習った部分のワークを日々進めていくことで、理解を深めよう。		
定期テスト範囲	1 学期中間(5 月中旬頃)	細胞のつくり 植物の体のつくりとはたらき		
	1 学期期末(6 月下旬頃)	動物の体のつくりとはたらき 動物の行動のしくみ		
	2 学期中間(9 月下旬頃)	物質の成り立ち 物質の表し方 さまざまな化学変化		
	2 学期期末(11 月下旬頃)	化学変化と物質の質量 電流の性質 電流の正体		

学 年 末(2月下旬頃)		電流と磁界 地球をとり巻く大気のような 天気の変化と大気の動き		大気の水の変化
学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	生物の体のつくりと はたらき	・生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、その規則性や関係性を見いだして表現するとともに、理解する。また、それらの観察、実験などに関する方法を立案して、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、技能を身に付ける。	・細胞のつくり ・植物の体のつくり ・光合成 ・蒸散 ・維管束・道管・師管 ・動物の体のつくり ・消化器官・呼吸器官 ・循環器官・排出器官 ・感覚器官・神経系 ・運動器官
	5			
	6			
	7	化学変化と原子・分子	・化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、原子や分子、化学変化における物質の変化やその量的な関係を理解する。また、それらの観察、実験などに関する技能を身につけ、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けて、その結果を分析して解釈し、表現する。	・原子、分子 ・化学式 ・分解、電気分解 ・酸化、還元
2	9	電流とその利用	・電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行う。また、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流のはたらき、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見出して表現したり、それらの理解したりするとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。	・化学反応式 ・化学反応と熱 ・化学変化と物質の質量
	10			・回路図、電気用図記号 ・電流の性質 ・電圧の性質 ・電流と電圧の関係 ・抵抗の性質 ・電力と熱量 ・電力量 ・静電気の性質 ・電流の正体
	11			
	12			

3	1			・磁石の磁界 ・直流と交流
	2	地球の大気と天気の変化	・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら，天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現するとともに，それらを理解する。また，それらについて見通しをもって解決する方法を立案して観察，実験などを行い，その結果を分析する技能を身に付ける。	・気象観測のしかた ・大気の動き ・水の循環 ・霧，雲のでき方 ・飽和水蒸気量 ・湿度 ・高気圧，低気圧 ・気団，前線 ・日本の天気
	3			

教科名	音楽	学 年	2	週時間数	1
使用教科書	「中学生の音楽2・3上」(教育芸術社) 「中学生の器楽」(教育芸術社)				
副教材等	「音楽のハーモニー」(正進社) マイソング(正進社)				

教科の目標		○楽曲の美しさを感じ取りながら曲想と音楽の構造や背景との関わりを捉えて理解し、表現や鑑賞に生かすことができる。 ○音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、どのように音楽表現するかについて知識や技能を生かしながら、思いや意図をもつことができる。 ○様々な体験を通して音楽に対する興味・関心を養い、生活をより明るく豊かにし、音楽に親しんでいく態度を身につけることができる。		
授業の進め方		○多様な音楽に興味・関心をもてるよう、幅広いジャンルの曲を扱います。 ○グループ活動を取り入れ、みんなで助け合い、工夫し合いながら学びを深めます。 ○年間を通して歌唱・鑑賞・器楽・創作の授業を行います。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけた力	○曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ○創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作の技能で表している。	○曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。 ○音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。	○主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験している。 ○音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養っている。
	方法	・定期テスト ・実技テスト ・副教材、ワークシートの内容	・各活動への取り組み方 ・副教材、ワークシートの内容 ・実技テスト	・各活動への取り組み方 ・言動の意欲 ・副教材、ワークシートの内容
学習のポイント	授業	○普段から話をしっかり聴き、音楽の記号や用語を覚えて表現に生かそう。 ○それぞれの曲の時代背景や音楽の仕組みを覚えよう。	○歌唱や器楽では、曲にあった表現を工夫しながら堂々と演奏できるようにしよう。 ○音楽を心で聴き、よさや美しさを感じ取れるよう常に意識しよう。	○どの分野にも意欲的に取り組みよう。 ○仲間の考えを尊重し合い、お互いの音楽性を高め、全員で協力して進めよう。
	家庭	○普段からテレビなどで流れているクラシック、ポップスや伝統音楽など、様々な音楽を聴くことを心がけ、授業で学習する曲とのつながりを見つけて学びを深めよう。 ○実技は、頭の理解だけでは難しいので、時間や場所を考えて練習しよう。		
定期テスト範囲	1学期中間(5月下旬頃)			
	1学期期末(6月下旬頃)		1学期で学習した内容	
	2学期中間(9月下旬頃)			
	2学期期末(11月下旬頃)		2学期で学習した内容	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	・歌声づくり	・堂々と歌う。周りの音を聴き合う。	・既習曲，夢の世界を夏の思い出
	5	・交響曲の鑑賞	・曲の構成を理解し，動機に注目して曲想の変化を味わう。	・交響曲第5番ハ短調
	6	・パイプオルガンの鑑賞	・パイプオルガンの響きを味わい，旋律の重なりを楽しみながら聴く。	・フーガ短調
	7	・合唱コンクールに向けて	・自分のパートの音を正確にとり，協力してパート練習を進める。	・合唱コンクールの課題曲，自由曲選曲
2	9	・合唱コンクールに向けて	・周りのパートの音を聴きながら歌い，クラスで1つのものを創り上げる達成感を味わう。	・合唱コンクールの課題曲，自由曲（文化祭まで）
	10			
	11	・歌舞伎，オペラの鑑賞	・歌舞伎やオペラに親しみ，そのよさを味わう。	・「勧進帳」から ・「アイダ」から
	12	・創作 ・器楽	・自由にリズムや音をつないで曲を創る楽しさを知る。楽譜に対しての知識や教養を深める。 ・アルトリコーダーに親しみ，良い音を追及して演奏する。	・自作曲 ・喜びの歌他
3	1	・日本の名曲	・歌詞の内容から情景を読み取り，表現を工夫して歌う。	・荒城の月
	2	・世界各地の音楽の鑑賞	・様々な楽器の音色や名前を知る。	・世界の諸民族の音楽
	3			

教科名	美術	学 年	2	週時間数	1
使用教科書	「美術 2. 3」(光村図書)				
副教材等	「美術資料」(秀学社) 「レタリング字典」(秀学社)				

教科の目標		○対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。 ○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と造形的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 ○主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養うことができる。		
授業の進め方		○作品制作を通して、見通しをつけながら作業に取り組むようにします。 ○基本的な技術を身につけ、制作に応用できるようにします。 ○作品の制作の他、知識や技能を幅広く身につけられるようにします。 ○感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図、表現のよさ、美しさを感じ取る心を養います。 ○表現方法の異なる作品の鑑賞することにより、いろいろな表現方法に気づき、深めます。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ○意図に応じて自分の表現方法を追求し、造形的に表している。	○自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と造形的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	○美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動の取り組みようとしている。
	方法	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート	・アイデアスケッチ ・完成作品 ・定期テスト ・ワークシート	・各活動への取り組み方 ・アイデアスケッチやワークシートの内容
学習のポイント	授業	○対象をよく観察し、ものを見る目を養い、考える力をつけよう。 ○様々な表現方法に挑戦し、技能を身に着け自己の表現につなげ、試行錯誤しながら表現の幅を広げよう。	○美術作品や友達の作品のよさや美しさを感じ取ろう。 ○表現の意図や機能性など、美術の働きや社会の中の美術を考えよう。 ○アイデアや感じたことを書き留め制作の基礎をつくろう。	○どの分野にも意欲的に取り組もう。 ○仲間の考えや意見を尊重し、認め合いながら美術への感性を高めていこう。
	家庭	○制作に必要な準備物を考えて用意し、完成までの見通しをもって家庭でも自主的に制作しよう。 ○芸術や美術に興味を持ち、美術館等に足を運び、展覧会などを鑑賞しよう。 ○日頃より様々な分野の表現活動に興味を持ち、作品につなげていこう。		
定期テスト範囲	1 学期中間(5 月下旬頃)			
	1 学期期末(6 月下旬頃)		1 学期で学習した内容	
	2 学期中間(9 月下旬頃)			
	2 学期期末(11 月下旬頃)		2 学期で学習した内容	
	学 年 末(2 月下旬頃)		1 年間で学習した内容	

学期	月	単 元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	《デザイン分野》 ・パッケージデザイン ・鑑賞	・地域の魅力を表したデザインに関心を持ち、自分が住む地域の魅力から感じとったことや考えたことをもとに主題を生み出すことができる。 ・色や形の効果を理解し、イメージにあった選択ができる。 ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。 ・細部まで自分の表現を迫及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・対象物の材質を理解し、質感を表現することができる。	・アイデアスケッチ ・作品制作計画 ・仕上げ ・名画を鑑賞
	5			
	6			
	7			
2	9	《絵・彫刻分野》 ・空想の動物 ・鑑賞	・発想をひろげ、想像力をはたらかせることができる。 ・身の回りの物や出来事を生き物と組み合わせて想像の生き物を作ることができる。 ・イメージをデザインし、粘土などを使い立体にすることができる。 ・多角的に見た立体物を想像することができる。 ・細部まで自分の表現を迫及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現のよさ、美しさなどを感じ取ることができる。	・アイデアスケッチ ・作品制作計画 ・仕上げ ・名画を鑑賞
	10			
	11			
	12			
3	1	《デザイン分野》 ・ピクトグラム ・鑑賞	・ピクトグラムなど、情報をわかりやすく伝えるデザインに関心を持ち、情報を伝える目的や条件などをもとに伝える相手や内容などから主題を表現することができる。 ・細部まで自分の表現を迫及し、試行錯誤しながら制作ができる。 ・自分らしくよりよい表現を目指して創意工夫することができる。 ・制作に集中して取り組み、最後まで根気よく仕上げようと努力する。	・下書き ・仕上げ
	2			
	3			